BOOKS OF THE YEAR 2013 Vol.2

南部町の図書館職員が選ぶ、今年読んだ本の中で一番心に残った本の紹介「BOOKS OF THE YEAR2013」第2弾！未読の方はぜひ読んでみてくださいね！！

『こなもん屋馬子』

田中啓文／実業之日本社

店主馬子の絶品料理と店での騒動が、客の悩みをしらぬまに解決！B級グルメミステリー、いやY本新喜劇？馬子が常連客を「豚玉のジョー」と命名したように、私もよんでみようかな。「推理小説のタロー」「韓流のおハナ」なんちゃって。(公共H)

「カラスの教科書」

松原始／雷鳥社

みなさんは、カラスにどんなイメージをもっていますか？この本を読むと、カラスの見方がガラッと変わります。パンダのように白黒ツートンカラーのカラスがいることも、この本を読んで初めて知りました。カラスが好きな人も嫌いな人も、一度手に取ってみてください。(学校T)

『茨の木』

さだまさし／幻冬舎

喧嘩別れした兄から、父の遺品のバイオリンが届くところから物語が始まる。そのバイオリンのルーツを辿るために、主人公は英国へ旅立つ･･･。旅の中での出会いを通じて主人公は、初恋の人、別れた妻、兄、亡父の事を思い出していく。忘れかけているなにかの大切さを思い出させてくれる作品。　(公共S)

『あたしがおうちに帰る旅』

ニコラ・デイビス／小学館

街のペットショップで、働かされている少女が、雇い主にこき使われ、唯一の友達は店の売り物のハナグマだけ。そこにオウムが友達に加わり、一人と二匹は逃亡の旅に出ます。少女と動物達のやりとりに心癒されました。　(公共Ｉ)

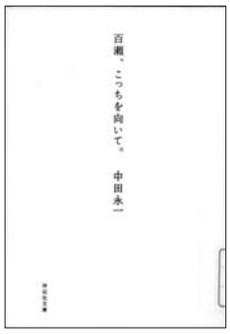
『ごちそうさん　上』

森下佳子／NHK出版

朝ドラである。食べること、相手のために料理を作ること、ヒロイン・め以子が紡ぐ人と人とのつながりにすっかりハマってしまったのである。め以子夫婦のラブストーリーもすてきですよ。(公共T)

『百瀬、こっちを向いて』

中田永一／祥伝社



「こんなに苦しい気持ち、最初から知らなければよかった･･･！」恋の持つきらめきや切なさがつまった恋愛小説集。「恋は迷わずに飲む不幸の薬･･･」というスピッツの歌詞が思い浮かんだ。　(学校N)

『きみは白鳥の死体を踏んだことがあるか(下駄で)』

宮藤官九郎／文藝春秋

書店の平積みを眺めて、ふと目にしたこのタイトル。さすがクドカン。あの「あまちゃん」が頭をよぎり、中も読まずに即買いました。東北に暮らす高校生の青春物語。声をあげて笑いました。矢沢永吉の「成りあがり」と共に中高生男子に。(学校T)

『本日は、お日柄もよく』

原田マハ／徳間書店

普通のOL二宮こと葉が幼馴染の結婚式で出会ったのは、伝説のスピーチライターの祝辞。この出会いから物語は始まり、こと葉はやがて選挙のスピーチライターへ。ちょっと切ない恋心あり、どこかで聞いたような“選挙”もありの一冊です。(公共K)

★こちらに掲載の本はすべて、南部町立図書館で借りることができます。貸出中の本は予約ができますので、お気軽に図書館職員にお尋ねください。（注）ここに掲載した本は今年出版された本に限りません。